

地域のキャンパス化実現に向けた 地域づくり支援の相談窓口機能の形成

富山市シティプロモーション推進事業

4

取り組みの背景

●相談窓口機能形成のねらい

富山大学は、地域に開かれた大学として、多面的・複合的な連携を要する課題解決へと取り組む総合大学を目指し、平成20年に地域連携推進機構を組織化しました。「どこが大学の窓口か判らない」との地域の声を解消するために窓口の一本化を図り、多様な相談ニーズに対し、関連部門と調整を行い、スピーディかつフレキシブルな対応ができる体制整備に努めているところに、富山市から連携事業実施の持ちかけがありました。

共働的な連携事業の目標が明確でないと、やがて「あなた任せ」の状態になってしまい、期待された事業効果を生みだすことはできません。大学の本来的機能である教育的、研究的な観点から、どのように地域活性化へと寄与できるかを明確化し、大学が受動的な下請けではなく地域との共通目標を持ち、その実現に向けて各々の役割を果たすべく地域連携スキームの構築が必要です。

平成21年度 地域連携スキームの構築

本学教員による富山市シティプロモーション懇話会への協力や、富山ライトレールとの協働事業の実績などにより、当該連携事業の実施の打診がありました。

富山大学と富山市は、まちづくりや文化、環境、教育等の分野で連携し、地域振興を図る取り組みを進めるため包括協定を締結（平成20年10月）していたことから、富山市からの相談条件は、組織的な対応を図る富山市との共同主催事業と位置づけ、役員会にて正式承認しました。事業実施に向けた地域連携スキームは、人文社会科学系学部への協力要請を行い、「講義活用」「卒業論文」「ワークショップ形式」の3タイプにおける実施可能性を、数ヶ月かけて教職員が一体となって準備・検討した結果、前者2タイプの実施体制を構築しました。

●人間発達科学部の講義活用による連携事業

山根 拓教授の協力のもと、人間発達科学部・人間環境システム学科環境社会デザインコース3年生を対象とする講義「プロジェクトマネジメント」を活用し、富山市職員の協力によるガイダンス実施、現地エクスカーションを実施した上で、シティプロモーション企画を提案しました。



●人文・芸術文化学部生によるワークショップ形式の事業

人文学部・中井精一准教授ゼミ、芸術文化学部学生（公募）および沖 和宏講師の協力のもと、富山市職員の協力によるガイダンスや複数回の現地踏査を実施しました。学生が中心となって、課題解決への企画検討、検証等のグループワークを行い、各学部生の特性を活かしたシティプロモーション企画として、まち歩きコースを提案しました。

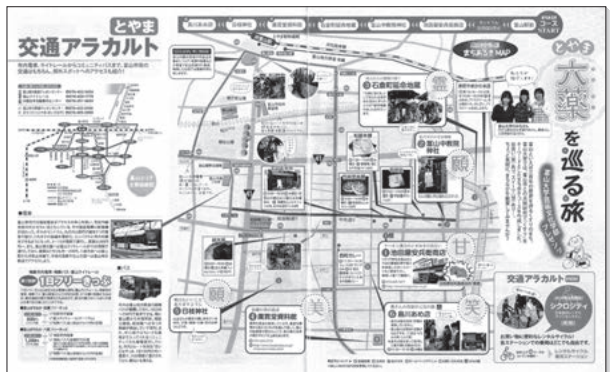


●実施体制の構築と合同報告会の開催

円滑な連携事業推進に向けた体制整備として実行委員会を設置し、企画立案、事業実施、進捗報告を行い、また下部組織として「ワークショップ推進ワーキンググループ」を設置することで、ワークショップ実施への企画立案及び準備活動を行いました。



共同事業の成果は、「講義活用」「ワークショップ形式」の両タイプ合同にて実施しました。報告会の様子は新聞やテレビなどで広く報道され、さらに事業成果は、富山市広報誌（人間発達科学部）、KNBテレビ・富山情報局（人文学部）、るるぶフリー春夏号掲載（芸術文化学部）にて広報されました。



平成22年度 地域連携推進員の参画による事業

平成22年4月より、富山市より長期派遣職員として地域連携推進員を受け入れ、本学の地域づくりの展開を行っています。そこで、地域連携推進員を仲介としたコミュニケーション強化による、大学と自治体のWin²の関係構築とともに、新たな成果（アウトプット）の創出を目指し、平成21年度に構築した事業スキームをブラッシュアップしました。

●地域連携推進員の参画によるワークショップの事業

人文学部生（公募）、及び大西宏治准教授の協力のもと、

富山市職員の協力によりガイダンスや現地踏査を実施し、学生が中心となって課題解決への企画検討、検証等のグループワークを行い、人文学部の特性を活かしたシティブロモーション企画として、まち歩きコースを提案しました。



●芸術文化学部の特性を活かす映像制作

公募により芸術文化学部学生を募り、同学部の西島治樹講師、伊藤裕夫教授、島添貴美子准教授の協力のもと、学生が自発的にテーマを考えて富山市のPRポイントをまとめ、芸術文化学部の特性を活かしたシティブロモーション企画として、富山市のPR映像を制作しました。



●新たなる試みの成果

地域連携推進員を介したことで、富山市のニーズと学部の特性をマッチングすることができ、既往の企画提案に加え、映像制作という新たなシティブロモーションツールを提供することができました。なお、平成21年度同様、事業成果は富山市広報誌・富山シティFM出演により既に広報され、るるぶフリー春夏号、アンテナショップでの放映などにより広報予定です。

連携の効果

地域と大学の連携共働事業は、地域と大学が共通目標を持ち、両者がWin²な関係で、互いの役割を果たすことが不可欠です。連携事業の実施により、研究活動や演習実施に際しての協力関係構築を図ることでき、教育環境を向上させるといった副次的効果が発生し、連携事業を通して新たな連携が生まれています。また、地域のキャンパス化を目指す大学にとっても、学生への生きた教材提供といった教育の観点ばかりではなく、就職活動時のアピールポイントになるなどの副次的効果も発生しています。大学と地域の双方が連携事業実施による効果を理解し、ともに汗をかいて協働することが事業成功の秘訣となります。